



# ごみゼロ リーダー

## 住之江区 第9号

## NEWS

平成30年10月発行  
西南環境事業センター

### 住之江区 第8期

## 廃棄物等推進員(ごみゼロリーダー)の委嘱式及び研修会開催



住之江区役所 舞昆ホールでの委嘱式の様子



西原 昇 区長

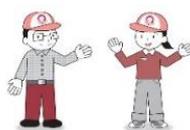


委嘱状授与の様子

■ 平成30年9月7日(火)18時30分から、住之江区役所舞昆ホールで第8期廃棄物減量等推進員(ごみゼロリーダー)の委嘱式が開催され、各連合町会から67名の方にご参加いただきました。

冒頭、西原区長より、ごみ減量に向けて廃棄物減量等推進員と行政が協力することが必要であるとの挨拶があり、続いて区代表、各連合代表の方々に区長より委嘱状の授与がおこなわれました。

■ 授与の後、廃棄物減量等推進員 区代表の高田 宏司様より「私たちが生活していくうえでの「ごみ」は切り離せない問題であり、ごみ減量は地域ぐるみでの活動が必要である。また、今回委嘱された廃棄物減量等推進員は、行政と地域の方々のパイプ役として活動していただきたい」と挨拶をいただき委嘱式を締めくくりました。



廃棄物減量等推進員  
高田 区代表 挨拶

## 引き続き研修会を実施

■ 委嘱式終了後の第2部では研修会を行ない、西南環境事業センター職員により、廃棄物減量等推進員の役割について説明をさせていただきました。

続いて、NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 谷 美也子様より「温暖化を考えよう。まずは、ごみ減量から」今、問題となっている地球温暖化の原因となる温室効果ガス(CO<sub>2</sub>など)の削減について、私たちに出来ることの1つとして、ごみ減量(ごみ分別)により焼却量を減らしCO<sub>2</sub>排出量を削減。また、食品ロスや生ごみ3きり運動について講演がおこなわれました。



NPO法人大阪環境カウンセラー協会  
谷 美也子様による講演

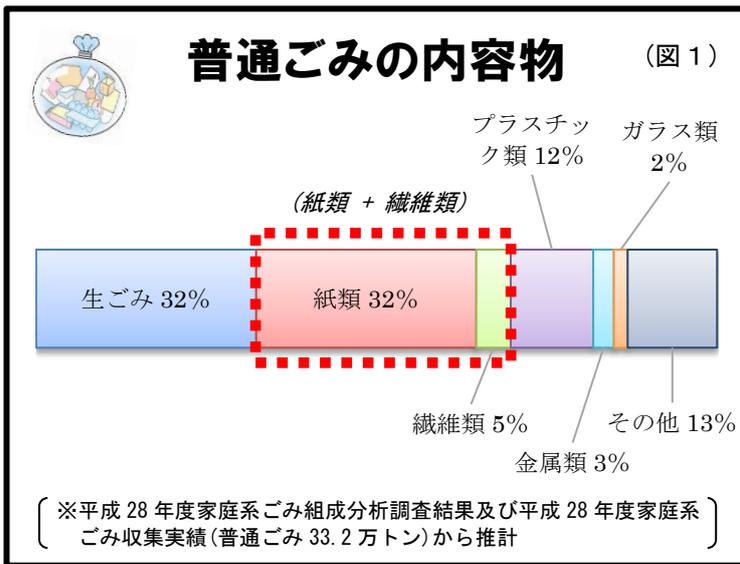
# ごみ減量に向けて!! 住之江区での取り組み

## 普通ごみの中に資源化出来るもの

年間約8.3万トン

- 大阪市の家庭から出される普通ごみ(焼却処理)は、年間約 33.2 万トンあり、その中には資源化できるものが約 8.3 万トンも含まれています。

ごみの減量、資源の有効利用には、資源化できるものを分別して出すことが大切です。



- 家庭から排出される普通ごみの組成分析の結果、紙類と繊維類を併せると約 4 割にもなります。(図 1)

大阪市では平成 37 年度のごみ処理量(焼却量)84 万トンを目安とし、ごみ減量に取り組んでおります。そこで、区ごとのごみ減量目標を設定し「地域」と一体となって進めていくことが重要であり、「ごみゼロリーダー」の皆さんと連携し取り組んでまいりたいと考えています。

## マイクロプラスチックごみについて

- マイクロプラスチックとは、大きさが 5 mm 以下の微細なプラスチックごみであり、海洋への流出が世界的に問題となってきました。プラスチックごみは自然には分解されずいつまでも海洋を漂い海中に蓄積されていくため生態系にも悪影響をおよぼしています。このため、ごみは適切な処理が必要であり、皆様の心がけが大切です。

《編集・発行》

大阪市西南環境事業センター (住之江区泉 1-1-111)

TEL : 06-6685-1271/FAX : 06-6685-1282



## 住之江区では「容プラ」を重点的に分別

- 平成 28 年度の市域分別率に対し住之江区の分別率は「資源ごみ」76.3%に対し 67.8%、「容器包装プラスチック」39.3%に対し 34.0%、「古紙・衣類」59.3%に対し 64.8%となっており、平成 37 年度の市域の目標分別率より差が最も大きい「容器包装プラスチック」を重点的に分別率アップにとりこんでいくことを西原区長と決定し、平成 37 年度までに段階的に容器包装プラスチックの分別率を上げていく計画です。

(住吉区 28 年度市域平均および 37 年度市域目標)

	資源ごみ	容プラ	古紙・衣類
28 年度市域の分別率	76.3%	39.6%	59.3%
28 年度住之江区の分別率	67.8%	34.0%	64.8%
37 年度市域の目標分別率	79.5%	50.7%	80.1%

## 容器包装プラスチック分別量アップ計画 1 回に出す普通ごみの中から

- 平成 37 年度の市域目標に向けた 1 人あたりの平成 31 年度年間分別量アップは 491 g となり 1 回に出す普通ごみの中から 5 g (発泡トレイ(L)) 1 枚分を分けて出していただき、毎年段階的に分別量を増やしていただくと、平成 37 年度に目標が達成出来ます。

目標達成には、ごみゼロリーダーの皆さんのご協力が必要不可欠です。

